

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 09-172915

(43)Date of publication of application : 08.07.1997

(51)Int.Cl.

A01K 87/06
A01K 87/08

(21)Application number : 07-341355

(71)Applicant : DAIWA SEIKO INC

(22)Date of filing : 27.12.1995

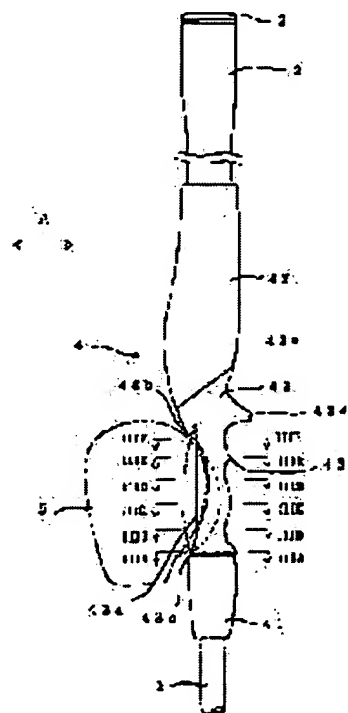
(72)Inventor : YAMAMOTO SHIGERU
MATSUBARA SADAJI
OYAMA SANEYOSHI

(54) FISHING ROD

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a fishing rod having a bulged part asymmetrically bulging on both sides of a rod pipe in a reel leg-installing part, capable of corresponding to reels having various shapes, readily carrying out permuting and excellent in operability.

SOLUTION: This fishing rod has a handle part 4 on a rod pipe 1 and the handle part 4 is equipped with a front grip part 41, a rear grip part 42 and a reel leg-installing part 43 installed between the front grip part 41 and the rear grip part 42 and the reel leg-installing part 43 has a bulged part asymmetrically bulged on both sides of the rod pipe 1. Furthermore, when an user grips the fishing rod so that a reel 5 is located at upward position than the rod pipe 1, the bulged part on a hand side which the user grips is preferably bulged more than other bulged part.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination] 17.03.1999

[Date of sending the examiner's decision of rejection] 16.01.2001

THIS PAGE BLANK (USPTO)

[Kind of final disposal of application other than
the examiner's decision of rejection or
application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's
decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's
decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2000 Japan Patent Office

THIS PAGE BLANK (USPTO)

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平9-172915

(43) 公開日 平成9年(1997)7月8日

(51) Int.Cl.⁶

A 0 1 K 87/06
87/08

識別記号

庁内整理番号

F I

A 0 1 K 87/00

技術表示箇所

6 3 0 E

6 3 0 D

審査請求 未請求 請求項の数 2 O L (全 6 頁)

(21) 出願番号 特願平7-341355

(22) 出願日 平成7年(1995)12月27日

(71) 出願人 000002495

ダイワ精工株式会社

東京都東久留米市前沢3丁目14番16号

(72) 発明者 山本 茂

東京都東久留米市前沢3丁目14番16号

ダイワ精工株式会社内

(72) 発明者 松原 貞二

東京都東久留米市前沢3丁目14番16号

ダイワ精工株式会社内

(72) 発明者 大山 実良

東京都東久留米市前沢3丁目14番16号

ダイワ精工株式会社内

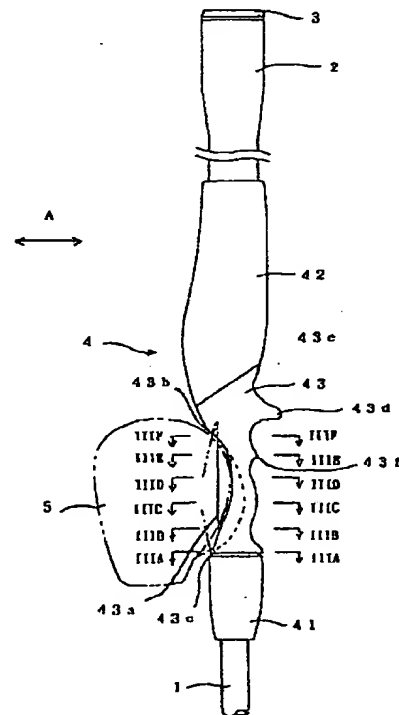
(74) 代理人 弁理士 鈴江 武彦

(54) 【発明の名称】 釣り竿

(57) 【要約】

【課題】 本発明は、種々の形状のリールに対応することができ、パーミングが行い易く、操作性に優れた釣り竿を提供することを目的とする。

【解決手段】 竿管上にハンドル部を有する釣り竿であって、前記ハンドル部は、前握り部と、後握り部と、前記前握り部および前記後握り部との間に設けられたリール脚設置部とを有し、前記リール脚設置部は、前記竿管の両側に非対称に膨出する膨出部を有することを特徴としている。



1

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 竿管上にハンドル部を有する釣り竿であって、前記ハンドル部は、前握り部と、後握り部と、前記前握り部および前記後握り部との間に設けられたリール脚設置部とを有し、前記リール脚設置部は、前記竿管の両側に非対称に膨出する膨出部を有することを特徴とする釣り竿。

【請求項 2】 リールが竿管よりも上方に位置するように使用者が釣り竿を把持した際に、使用者が把持した手側の膨出部が他方の膨出部よりも多く膨出している請求項 1 記載の釣り竿。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は釣り竿に関し、特に釣り竿操作性を改良した釣り竿用ハンドルを有する釣り竿に関する。

【0002】

【従来の技術】ルアーにアクションを与えたり、魚をフッキングする操作を行う際には、通常釣り竿とリールを片手で把持して釣り竿操作を行う。このため、釣り竿の把持部（ハンドル部）におけるパーミングの行い易さが釣り竿操作性に大きく影響を及ぼす。

【0003】従来、パーミングのし易さを考慮した釣り竿としては、実開平 1-82765 号公報や実開平 6-3075 号公報において開示されているものが挙げられる。これらの公報に記載されている釣り竿は、リール脚設置部の側方に膨出部を形成したものであり、この膨出部によりパーミングを行い易くしている。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、上記公報において開示されている釣り竿の膨出部は、いずれも釣り竿を上方から見たときに左右対称に膨出している。このため、左右対称である膨出部を有する釣り竿においては、左右が非対称であるリール、例えばリール側枠部分が左右非対称であるリールやリール脚設置部分からの距離（幅）が左右非対称であるリールを取り付けることができない場合がある。

【0005】また、通常人には利き手があり、釣り人により右手専用もしくは左手専用の釣り方となる。このため、右手専用の釣り竿または左手専用の釣り竿への要求も現実には存在している。上記左右対称である膨出部を有する釣り竿では、このような要求を満足することができない。

【0006】本発明はかかる点に鑑みてなされたものであり、種々の形状のリールに対応することができ、パーミングが行い易く、操作性に優れた釣り竿を提供することを目的とする。

【0007】

【課題を解決するための手段】本発明は、竿管上にハンドル部を有する釣り竿であって、前記ハンドル部は、前

2

握り部と、後握り部と、前記前握り部および前記後握り部との間に設けられたリール脚設置部とを有し、前記リール脚設置部は、前記竿管の両側に非対称に膨出する膨出部を有することを特徴とする釣り竿を提供する。

【0008】本発明において、リールが竿管よりも上方に位置するように使用者が釣り竿を把持した際に、使用者が把持した手側の膨出部が他方の膨出部よりも多く膨出していることが好ましい。

【0009】

【発明の実施の形態】以下、本発明の実施の形態を図面を参照して具体的に説明する。図 1 は本発明にかかる釣り竿の一実施形態を示す正面図であり、図 2 は図 1 に示す釣り竿の平面図である。

【0010】図中 1 は繊維強化プリプレグからなる竿管を示す。竿管 1 の一方の端部（後端部）には、端部握り部 2 が設けられており、竿尻部品 3 が取り付けられている。また、竿管 1 の後端部よりも小径側には、把持部（ハンドル部）4 が設けられている。

【0011】竿管 1 を構成する繊維強化プリプレグは、特定方向に引き揃えた強化繊維に樹脂を含浸してなるものであり、繊維強化プリプレグを構成する強化繊維としては、炭素繊維、ガラス繊維、アルミナ繊維、アラミド繊維等を用いることができ、含浸させる樹脂としては、エポキシ樹脂、フェノール樹脂、ポリエステル樹脂等を用いることができる。

【0012】端部握り部 2 は、握持し易い大きさ（外径）、形状（例えば平面状）に形成する。端部握り部 2 を構成する材料としては、繊維強化プラスチック（FRP）等を用いることができる。このような材料を用いることにより、高強度で軽量であり、魚信感知性に優れたものにすることができる。なお、合成樹脂やコルク等を用いることもできる。

【0013】竿尻部品 3 を構成する材料としては、合成樹脂や、アルミニウム、真鍮、ステンレス鋼等の金属等を用いることができる。ハンドル部 4 は、主に前握り部 41、後握り部 42、および前握り部 41 と後握り部 42 との間に設けられたリール脚設置部 43 から構成されている。

【0014】前握り部 41 は、回転可能にリール脚設置部 43 に取り付けられており、釣り竿に対してリール 5 を着脱する際に回転させる。また、後握り部 42 は、図 1 に示すように、その厚さ方向（説明上、図 1 に示す方向 A を厚さ方向といい、図 2 に示す方向 B を幅方向という）において緩やかに凸となるような稜線を有している。また、後握り部 42 は、図 2 に示すように、その幅方向においても緩やかに凸となるような稜線を有している。

【0015】前握り部 41 および後握り部 42 を構成する材料としては、人工コルク、天然コルク、発泡体材料、合成樹脂、木材等を用いることができる。なお、前

10

20

30

40

50

握り部41には、ねじ部やリール脚受入れ部が形成されているので、その部分には補強のために金属やセラミックからなる部材を設けても良い。

【0016】リール脚設置部43のリール搭載側には、リール脚設置面43aが形成されており、また、リール5の固定フードを収容する固定フード受入れ部43bおよびリール5の移動フードを収容する移動フード受入れ部43cが設けられている。

【0017】リール脚設置部43のリール搭載側と反対側（指が接触する側、以下、指触側という）には、指ずれを防止し、釣り人が釣り竿を確実に把持できるような形状を有するトリガー43dが設けられている。このトリガー43dは、後握り部42の緩やかな凸部に凹部43eを介して接続して設けられている。また、トリガー43dよりも先端部側には、トリガー43dよりも小さい突起である小トリガー43fが設けられている。また、小トリガー43fよりも先端側の指触側表面は、指ずれを防止し、釣り人が釣り竿を確実に把持できるような形状を有している。なお、トリガー43dおよび小トリガー43fの個数や高さ、並びに指触側表面の形状は、指触側表面に要求される特性に応じて適宜変更することができる。リール脚設置部43を構成する材料としては、繊維強化プラスチック（FRP）、合成樹脂等を用いることができる。また、手が接触する部分には、ゴム等の弾性部材を設けることが好ましい。

【0018】また、トリガー43dや小トリガー43fは、リール脚設置部43を形成する際に一体に形成しても良く、トリガー43dや小トリガー43fを別部材として作製し、その後これをリール脚設置部43に接着等の方法により取り付けても良い。

【0019】また、図2に示すように、リール脚設置部43は、竿管11の両側に膨出する膨出部43gを有している。この膨出部43gは、図3（A）～図3（F）に示すように、左右非対称である形状を有している。すなわち、図3（B）および図3（C）から分かるように、図2における膨出部43gの稜線43hの位置が左右で異なっている。なお、左右非対称とは、左右の膨出部が異なる形状を有していることを意味し、図3に示すように、膨出部の厚さを左右で異なるように形成しても良く、図2における点で示すように、膨出部の幅を左右で異なるように形成しても良い。また、一方の膨出部43gの下側面43iに凹凸を形成し、例えば突起条等を形成して、指を当接し易くもしくは引っ掛け易くしても良い。なお、この場合、両方の膨出部43gの下側面43iに凹凸を形成し、その凹凸の大きさを異なるようにして左右非対称としても良い。左右非対称にする場合に、その程度は、取り付けのリールの形状、構造等を考慮して適宜判断する。

【0020】また、この膨出部43gは、リールが竿管よりも上方に位置するように釣り人（使用者）が釣り竿

を把持した際に、釣り人が把持した手側の膨出部が他方の膨出部よりも多く膨出していることが好ましい。例えば、釣り人が釣り竿を把持する手が左手（右手）の場合には、釣り竿の後端部を手前にし、リールが竿管よりも上方に位置するようにしたときに、左側（右側）の膨出部が右側（左側）の膨出部よりも多く膨出していることが好ましい。これにより、釣り竿を把持する手によるバーミング等を確実に行うことができ、釣り竿操作性を向上させることができる。

10 【0021】次に、本発明の釣り竿における連結構造について図4を用いて説明する。図4は図1に示す釣り竿の断面図である。竿管1は、元竿管1aと、元竿管1a内から出し入れ可能である少なくとも一つの中竿管1bと、中竿管1b内から出し入れ可能であり、釣り糸を案内するトップガイド1cを有する穂先竿1dとから構成されている。

20 【0022】元竿管1aの一方の端部（後端部）の外側には、FRP等からなるスペーサ6を介して端部握り部2が取り付けられている。また、スペーサ6の後端部の内周面および竿尻部品3の外周面にはねじが切っており、両者が螺合することにより竿尻部品3が端部握り部2に装着されるように構成されている。この竿尻部品3を取り外すことにより、元竿管1a内から中竿管1bや穂先竿1dを取り出すことができる。

30 【0023】端部握り部2を構成する管状体は、先端方向に延出しており、その内部にリール脚設置部43の延設部43jが嵌合されている。なお、端部握り部2を構成する管状体がリール脚設置部43の延設部43jと嵌合する部分からスペーサ6までの領域においては、端部握り部2を構成する管状体と元竿管1aとの間は中空となっている。

【0024】前記管状体と延設部43jが嵌合している部分を含む領域上にハンドル部4の後握り部42が設けられている。後握り部42は、構成材料によるが、例えば後握り部42を構成する部品を別々に形成し、それらを接着して構成する方法、射出成形等による一体成形法等の方法により設けることができる。

40 【0025】リール脚設置部43は、元竿管1a上に設けられており、合成樹脂等により構成されるが、竿管を露出させて竿管とリール脚とが直接接するように構成しても良い。また、リール脚設置部43の先端側の外周面と前握り部41の内周面には、ねじが切っており両者が螺合している。したがって、前握り部41を回転させて釣り竿先端部方向に移動させた状態で、リール脚設置面43aにリール脚を当接させ、固定フードを固定フード受入れ部43bに挿入し、さらに移動フードを移動フード受入れ部43cに挿入して、前握り部41を回転させて釣り竿後端部方向に移動させてリールを釣り竿に固定するようになっている。

50 【0026】次に、本発明の釣り竿の把持状態について

5

図5を用いて説明する。図5は本発明にかかる釣り竿における把持状態を説明するための図であり、図3(C)に示す断面図に相当する位置を示したものである。

【0027】図5から分かるように、膨出部43gの上面がリール脚設置面よりも下方に偏位している。すなわち、リール5が竿管1よりも上方に位置するようにしたときに、断面においてリール脚設置部の外径が大きくなるにしたがって膨出部の上面が下方に下がるようにしている。これは、膨出部43gが釣り竿に装着するリール5のリール側枠部5aに衝突しないようにするためである。これにより、リール側枠部5aの位置をより低く、すなわちリール側枠部5aの下面の位置をリール脚5bの位置よりも低く（より釣り竿側に）位置させることができる。したがって、釣り竿の最下部からリール5の最上部までの距離を短くすることができる。この結果、釣り竿の最下部を支える指7とリール最上部を支える指（図示せず）による釣り竿およびリールの把持（パーミング）が非常に楽になり、じがも確実に把持することができる。

【0028】また、このような構成にすることにより、リール脚の下面の位置よりもリール側枠部下面の位置が低いリールを釣り竿に取り付ける場合に、リールと釣り竿との間に隙間ができたり、取り付けられなくなるといことがない。

【0029】また、上述したように、竿管の両側に設けられた膨出部を左右非対称に形成しているので、右手専用・左手専用の釣り竿としたり、右ハンドルリール専用・左ハンドルリール専用の釣り竿とすることができる。これにより、把持状態が良好になり、片手を主体とした釣り竿操作性を向上させることができる。このように膨出部を左右非対称に形成し、膨出部の上面をリール脚設置面よりも下方に偏位させることにより、非常に良好な把持状態を実現することができ、優れた釣り竿操作性を発揮させることができる。

【0030】なお、膨出部を左右非対称に形成する場合に、膨出部の偏位量を左右で変えることにより行っても良い。また、膨出部の偏位量は、取り付けのリール側枠部の形状やリール脚とリール側枠部との関係を考慮して適宜設定する。

6

【0031】上記実施形態においては、いわゆる中通し竿について説明しているが、本発明はこれに限定されず、種々の釣り竿にも適用することができる。また、本発明の釣り竿は、上記実施形態に限定されず、本発明の範囲を逸脱しない範囲内で種々の変更が可能である。

【0032】

【発明の効果】以上説明したように釣り竿は、前握り部と、後握り部と、前記前握り部および前記後握り部との間に設けられたリール脚設置部とを有するハンドル部を竿管上に設けてなる釣り竿であって、前記リール脚設置部は、前記竿管の両側に非対称に膨出する膨出部を有するので、種々の形状（特に、左右非対称）のリールに対応することができ、パーミングが行い易く、操作性に優れたものである。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明にかかる釣り竿の一実施形態を示す正面図。

【図2】本発明にかかる釣り竿の一実施形態を示す平面図。

【図3】(A)は図1のIIIA-IIIA線に沿う断面図、(B)は図1のIIIB-IIIB線に沿う断面図、(C)は図1のIIIC-IIIC線に沿う断面図、(D)は図1のIIID-IIID線に沿う断面図、(E)は図1のIIIE-IIIE線に沿う断面図、(F)は図1的IIIF-IIIF線に沿う断面図。

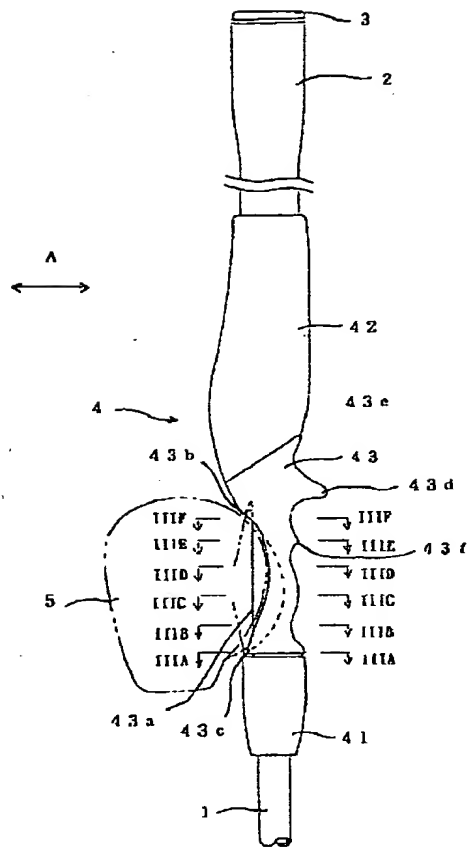
【図4】本発明にかかる釣り竿の一実施形態を示す断面図。

【図5】本発明にかかる釣り竿における把持状態を説明するための図。

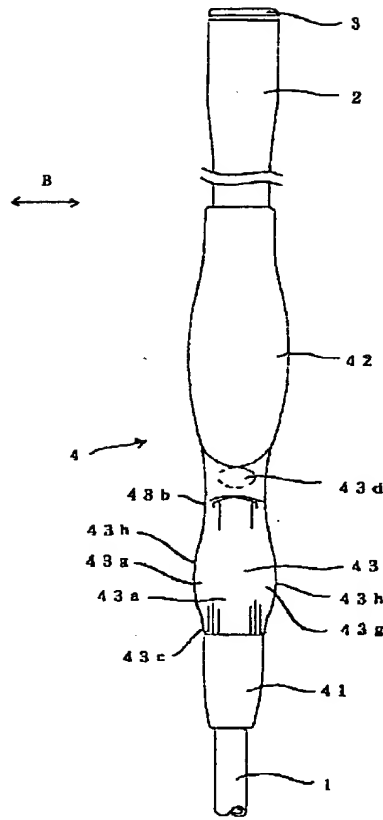
【符号の説明】

1…竿管、1a…元竿管、1b…中竿管、1c…トップガイド、1d…穂先竿、2…端部握り部、3…竿尻部品、4…ハンドル部、5…リール、5a…リール側枠部、5b…リール脚、6…スベサ、7…指、41…前握り部、42…後握り部、43…リール脚設置部、43a…リール脚設置面、43b…固定フード受入れ部、43c…移動フード受入れ部、43d…トリガー、43e…凹部、43f…小トリガー、43g…膨出部、43h…稜線、43i…下側面、43j…延設部。

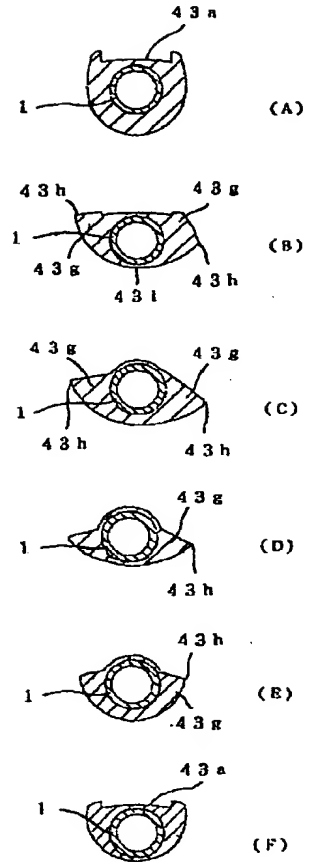
【図1】



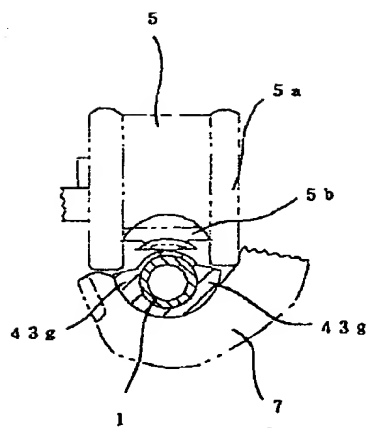
【図2】



【図3】



【図5】



【図4】

